

教科等研究会（中学校保健体育部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

一人一人が意欲的に取り組む保健体育学習の創造
～体力づくりへの意欲を高める授業を目指して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/26	13	御船中学校	11/22	広安西小学校	宮本智子 (広安西小学校) 竹田直樹 (広安西小学校)	1/27	御船中学校	倉岡 武 (御船中学校)

3 研究の概要

(1) 研究の内容

本部会では一人一人の生徒が意欲的に体育授業に取り組むことを目指しテーマを設定した。昨年度の実践の成果から徐々に本郡生徒の体力は向上傾向が見られるものの、依然として体力・運動能力調査結果では県や全国平均を下回る項目が多い。そのため、授業を通して体力を高めることができる指導の工夫に取り組んだ。研究テーマ達成のために3つの柱、「①意欲的に取り組ませる工夫」「②仲間とのかかわり方への手立て」「③小中連携の実践」をもとに研究を進めた。

① 生徒が意欲的に取り組む授業づくりについて

生徒が意欲的に取り組めるためには体育授業の中で何かが「分かる・できる」ようになる必要がある。生徒に達成感や満足感を味わわせるために、見通しをもたせる手立ての工夫を行った。まず、本時のねらいを誰が見ても分かるよう、具体的な行動様式で表記した。

また、授業全体を通して「視覚化」を意識するようにした。特に指導した技能のポイントを整理したり、生徒の気づきを残したりした。授業の導入部分では、本時のめあての確認のため「視覚化」を積極的に取り入れた。技のキーワードを示すなど、生徒がどこにポイントがあるかが一目で分かる掲示物を心がけ、学びの焦点化につなげた。

生徒が「分かる・できる」喜びを実感するために、単元において関連して高まる体力要素を考慮し、主運動につながる基本運動を計画的に位置付けた。右図は陸上競技、ハードル走での基本運動の様子である。ハードリングの技能習得に必要な股関節を動かす体の動きづくりを行った。単元始めのオリエンテーションでは基本運動の意義と行い方を説明した。単元を通して繰り返し行わせることで基本動作の徹底を図った。基本運動で自信を付けたことで主運動にも意欲的に取り組むようになった。



授業のポイントを示す視覚化の工夫



基本運動の様子【陸上・ハードル走】

② 仲間とのかかわりを活性化する工夫について

平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書によると、生徒は仲間とのかかわりのなかで「分かる・できる」喜びを実感していた。体育の授業の中でも言語活動の必要性が叫ばれており、本研究会でも積極的に取り入れている。

ペア学習やグループ学習の時間を多く設定し、生徒同士で課題解決に向けた学習を進めることができるようにした。課題解決していく中で何について教え合ったり、話し合ったりしていくかの視点を明確にした。

また、話し合いや教え合いの様子は積極的に賞賛し、たくさんの場面をつくれるよう助言を重ねた。視点についてだけでなく、学習が進むにつれ、「いいね」や「がんばれ」などの仲間のやる気を引き出す言葉も聞こえるようになった。自分自身ができなくても技のポイントを指摘したり、「〇〇ができていないか見ていて」など自分でポイントを整理したりしながら学習を進めることができるようになった。

授業のまとめの段階では、生徒に学習内容を振り返らせる場面を設定した。1時間の授業の中で学んだことを伝え合うことを目的としている。生徒は話し合ったり、確認し合ったりした内容を更に深めることができた。

視点をもとにペアで話し合っている様子



③ 小中連携の取組について

小学校の授業の様子を参観し、中学校の取組に生かしていけるよう、広安西小学校で行われた熊本県小学校体育研究発表大会に参加した。

公開授業1では宮本智子教諭による1年生の、公開授業2は竹田直樹教諭による3年生の体づくり運動であった。体育館に入っただけで子どもたちがワクワクするような場の工夫がなされていた。ゲーム性やストーリー性をもたせてあり、自然と仲間とかかわるような場の設定は大変参考になった。

また、学習指導要領から身に付けさせたい学習内容を整理し、授業の中で計画的に行っている直接的指導は興味深いものだった。より適切な指導を行うため、指導内容を具体的な子どもの姿で描くことや児童の実態をもとにして「何を・いつ・どこで・どのようにして」指導するのかをきめ細やかに計画されていることは中学校でも生かしていくべき内容だった。

授業研究会や記念講演会に参加できたのも好評だった。来年度も続けたいとの意見が多かった。



小学校の研究授業「1年生」風景

(2) 成果と課題（ ○：成果 ●：課題 ）

① 生徒が意欲的に取り組む授業づくりについて

- 目標を明確にしたり、見通しを持たせたりするなど、「視覚化」の手立ては意欲の向上につながった。
- 主運動につながる基本運動を続けることは特に苦手な生徒の意欲の向上に役立った。
- 生徒の実態に応じて指導すべき内容や方法を精選していく必要がある。
- アンケートを実施するなどし、意識の変容を捉え、効果的な指導につなげていく。

② 仲間とのかかわりを活性化する工夫について

- ペア学習やグループ学習は生徒の学びを深め、より意欲的に学習に取り組んだ。
- 指導内容の視点を明確にすることで生徒同士の言葉かけが活発になった。
- 各学校が継続して工夫・実践し、その成果や課題を学び合うことで郡全体の体力向上につながる工夫を共有していく必要がある。

③ 小中連携の取組について

- 児童の実態が知ることができただけでなく、小学校の取組を知ることを通して授業を改善していく際の視点が広がった。
- 小中連携の取組を継続していくための組織づくりを確立していく。

3 実践事例

(1) 授業の概要

中学1年生「球技：ゴール型（サッカー）」授業者：倉岡武教諭（御船中学校）

生徒が心からサッカーの授業を楽しんでいる様子が印象的であった。1時間の授業のなかで生徒をどのように変容させたいか、本時のねらいを明確にするために、生徒の感想を用い、クイズ形式の提示があった。単元を通して課題を解決していく流れは生徒に見通しをもたせることにもつながっている。指導した技能のポイントを整理したり、生徒の気付きを残したりすることで、授業全体を通して「視覚化」を意識されていた。

単元において関連して高まる体力要素を考慮し、主運動につながる基本運動を計画的に位置付けていたため、生徒は意欲的に活動していた。

仲間と学習することで、意欲的に学習できるよう、グループ学習の時間を多く設定していた。「スペースを作るためには」という課題を解決するために積極的に話し合ったり教え合ったりする様子が伺えた。

授業の「まとめ」の段階では学習内容を振り返る場面があった。生徒が自分たちで見つけた答えの発表があり、内容を更に深めていた。



(2) 授業研究会

① 授業者自評

- ・全員参加の授業を目指し、スキルウォームアップやドリル運動の工夫を行った。
- ・本時のねらいを達成するための展開や発問の工夫を今後も考えていきたい。
- ・生徒の気付きを取り入れたことで、考えながら動くようになってきた。

② 質疑応答・研究協議

Q：ゲームの人数を4人にした理由は？コートの広さを選んだ理由は？

A：実態を考慮し4人でボール、受ける人、動く人と役割を分け試行錯誤した結果。コートは15×25m、いろいろ試したが、無理なく動ける広さだった。数的優位も考えたが、スペースを見付ける特性に触れさせなかった。

Q：めあてを確認する時、穴あきのままだったのでは、共有した方がよかったのでは。

A：生徒が課題を解決するために、やってみて、答えを出させたかった。まとめの時間にいろんな答えが出たので、空欄にしてよかったと思う。

Q：スペースについて、どのようにイメージをもって発問されたのか？技能の評価は？

A：今回は早い段階でスペースに気付いていたので、その場所に動くことに視点をおいた。評価はドリブルとボールを持っていない時の動きの評価だけにしている。

～協議～（授業改善の取組や体力向上に向けた取組について）

- ・大津中学校では補強運動を年間通して行っている。めあて等で見通しをもたせている。授業ではポイントとなる言葉、つなぎ言葉を研究している。
- ・運動を日常化するためには、楽しみながら、生涯体育につなげたい。キャプテン会議など、自主的な取組を考える。体育委員主催の体育フェスティバルを行う。
- ・準備運動の工夫。種目に応じた準備運動を行う。
- ・木山中学校は体育館が使えない。昼休みに外に出て遊び始めた。スポーツウィークの取組を始めた。部活動は小学校の体育館を借りたり、夜練習をしたりしている。
- ・蘇陽中学校では部活動前に全トレを始めた。走れる生徒は長く走らせる。

③ 助言者まとめ

体育の授業で自己有能感を高めてあげる事が大事である。指導内容を明確化させることは子どもたちが見通しをもつことにつながる。振り返りの活動を充実させ、PDCAサイクルを大切にしたい。今日の授業では、子どもたちの感想を使ってめあてを出し、自分たちで検証していくという過程がポイントであった。子どもたちの教え合いや学び合いの工夫（有効な資料の提示など）を今後も続けてほしい。マネジメントの言葉を減らし、指導言葉を増やしていく。体育はアクティブラーニングの視点が詰まっている。授業の中で笑顔・歓声が絶えない授業を自分なりに考えてみてください。

(3) 学習指導案 (一部省略)

第1学年3・4組 保健体育科学学習指導案

場 所：御船中学校グラウンド
指導者：教諭 倉岡 武

1 単元名 球技：ゴール型 (サッカー)

2 本時の学習

(1) 本時のねらい

○パスやシュートのために、ボールを持っていない時に空いている場所に動くことができる(技能)

(2) 本時の展開 (7 / 10)

過程	時間	学習活動	学習形態	○教師の支援及び評価	備考
つかむ	15分	1 挨拶・スキルウォームアップを行う。 【スキルウォームアップ内容】 ・どんじゃん(なし→ドリブル) 2 主運動につながるドリル運動を行う。 【ドリル運動内容】 ・川渡り(ドリブル→2人パス)	一斉 ↓ グループ グループ	○メニューボードで授業の見通しを持たせる。 ○8人4チームに分かれて、スキルウォームアップを行わせ、思い切り動く雰囲気をつくる。 ○サッカーに必要な基本的動作、特にパスやドリブルでキープするスキルを身に付けさせる。 キーワード { ドリブル → 「一歩、一蹴り」 パス → 「ボールをよく見る」 「つま先を上げ足首を固定」	メニューボード コーン ビブス 掲示ボード
探る	10分	3 本時のねらいと学習内容を確認する。 【主発問】 ボールを持っていない時に、どのようにすればパスがつながりますか。 【本時のめあて(Today's Goal)】 ボールを持っていない時に、空いている場所に動いて、シュートやパスをしよう	一斉	○前回の授業の振り返りからねらいをおさえる。 ○本時のめあてを音読して確認させる。	主発問 提示 めあて 提示
		4 自分のチームの作戦を確認する。	グループ	○空いている場所を見つけるためにできることをグループで確認させる。 【言語活動1】 ○前回の作戦をもとに、ボールを持たない時の動きを考えさせる。	作戦ボード
確かめる	18分	5 4対4のゲームを行う。 〈試合の流れ〉 ① 3A-4A 3B-4B ② 作戦確認タイム ③ 3A-4A 3B-4B 【ルール】 ・ゴールキーパーは置かない。 ・サポートするチームは壁役で参加する。 ・1試合は3分を基本とする。	グループ	○作戦を意識するためにグループで決めたキーワードを伝えあいながらゲームするように促す。 ○シュートを決めた時や防いだ時など、良い動きについては積極的に称賛し合うように伝える。 ○ゲームとゲームの間に作戦ができていのかどうかを確認する時間を設定する。 【言語活動2】 【B評価】 状況を見ながらスペースを見付け、動くことができる。 【B評価に達するための手立て】 作戦ボードやキーワードをもとに個別に指導する。	コーン ビブス 作戦ボード
まとめる	7分	6 本時のまとめを行う。 ・グループでの振り返り ・全体でのまとめ	グループ ↓ 一斉	○グループで作戦を中心に本時のめあてが達成できたか、振り返りを行わせる。 【言語活動3】 ○全体で発表を行い、次時の確認を行う。	作戦ボード

4 終わりに

一人一人の生徒が意欲的に取り組める体育授業を目指して1年間研究を続けてきた。各学校、新体力テストの結果が年々良くなっているなど少しずつではあるが効果は確実に現れている。今年度の研究成果と課題を踏まえ、来年度はさらに充実した授業が展開できるよう、さらに研究を進めていきたい。